

2021年9月20日

玉川大學教育博物館



目次

展览会への招待	2
博物館の取り組み	3
報告	5
開館カレンダー	
利用案内	6

新板器械体操之図

歌川国利(画) 大倉四郎兵衛(発行) 木版色刷

35.6 × 23.5cm 明治

三段組の錦絵であらわされた、器械体操の風景です。風景画を得意とした歌川国利(1847-1899)によって描かれました。上段には城壁、平行棒、跳下台、木馬、中段にはブランコ、雲梯、下段ではブアンダー(画面中央にあるひもを回す器具)や板壁を使って元気よく運動する男子の様子がみられます。これらの運動は、フランスの体育教育の影響を受けていると言えるでしょう。上段の石垣の形状から、明治20年頃の陸軍戸山学校で行われていた体操ではないかという指摘もあります。

展覧会への招待

企画展「近代日本の学校体育と運動会」 特別展示「新収蔵アイコン展」

令和3（2021）年度は、企画展「近代日本の学校体育と運動会」と、特別展示「新収蔵アイコン展」を同時開催いたします。

「近代日本の学校体育と運動会」

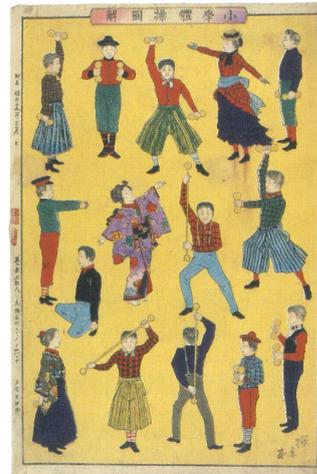
企画展では、近代日本の進展における体育教育に目を向けます。明治から大正、そして昭和期にいたるまでの学校体育と運動会について、指導書や教科書、棍棒、こんぼう 亜鈴、あれい 球竿きゅうかんといった教具、体操や運動会が描かれた書籍、掛図、錦絵などの資料を通して、時代ごとの変遷や特徴をご紹介します。

日本における学校体育は、明治5（1872）年に頒布された「学制」のなかで、しんぷ 下等小学の科目として「体術」が示されたことに始まります。その翌年に「体術」は「体操」と改称、明治11（1878）年には、文部省が体操伝習所を設立して体操指導法が教授され、明治政府が主導した欧米型の体操教育は、武道や娯楽を中心としたそれまでの日本の運動法を大きく変えていきました。

運動会の開催もまた、近代日本の学校教育の特徴です。日本の運動会のはじめは、明治7（1874）年の東京・築地の海軍兵学寮で催された競闘遊戯会であると言われています。小学校では、明治10年代後半から数校による連合運動会が催されました。その後、運動会は全国に普及し、徒手、亜鈴、球竿体操、旗奪い、旗拾い、綱引き、玉拾い、徒競走、高跳び、幅跳びなどの遊戯・競争系種目のほか、兵式体操、隊列運動などの演習系を組み合わせたものが行われました。こうした明治期を中心とした学校体育関係の資料に加えて、大正・昭和前期の学校体育の流れとともに、玉川学園などが導入・普及に努めたデンマーク体操についても、あわせて展示します。

「新収蔵アイコン展」

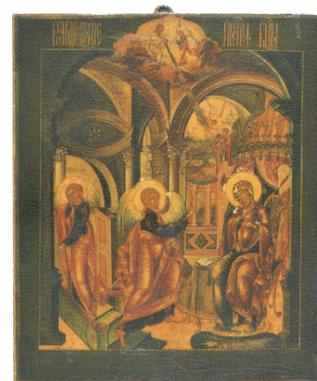
特別展示では、近年寄贈を受けたアイコン（聖像画）をご紹介します。新しくコレクションに加わったロシア・アイコン、ブルガリア・アイコンなどの聖なる世界をご堪能下さい。みなさまのご来場をお待ちしております。



小学体操図解
明治19（1886）年



小学全科修業双録
明治31（1898）年



受胎告知

企画展「近代日本の学校体育と運動会」・特別展示「新収蔵アイコン展」

◆会 期 2021年10月25日（月）～ 2022年1月16日（日）

◆時 間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

◆入館無料（事前予約制）※入館は、教育博物館ホームページよりお申込みください

◆会 場 玉川大学教育博物館 第2展示室

博物館の取り組み 田端遺跡敷石住居址の移設労作

玉川学園の構内に、縄文時代の敷石住居址が移設保存されています。敷石住居とは、関東・中部地方の丘陵地帯に見られる、縄文時代中期から後期に作られた特徴的な住居で、床に平らな石を敷いたものです。今回取り上げる敷石住居址は、町田市小山町に所在し、環状積石遺構（ストーンサークル）が発見されたことで知られる、田端遺跡で発掘されました。このたび、当館ではこの住居址の再移設に携わりました。経緯の記録を兼ねて、ここにその概要をご紹介します。

1968（昭和43）年春、玉川大学・玉川学園の学生・生徒で組織した玉川学園考古学研究会が、玉川学園職員であった考古学者の浅川利一氏の指導の下、田端遺跡の環状積石遺構の発掘調査を実施しました。その折、環状積石遺構の西200m程の場所で、敷石住居址が発見されたとの報が入り、急遽調査の対象に加えました。この住居址は隣家の敷地にまたがっていたため、発掘調査は北側の約半分のみでしたが、中央に石囲炉を持つ、直径3.75m程のものでした。時期は出土遺物から、約4,400～4,500年前の、縄文時代後期初頭と考えられます。このときの調査成果は、2017（平成29）年に刊行した、田端遺跡の発掘調査報告書に掲載されています。



敷石住居址発掘状況全景（北から）

同年夏、玉川大学通信教育部の課外活動団体、日本古文化研究会による「労作」（玉川学園の教育思想・実践の1つで、学生・生徒が自ら考え、自ら体験し、自ら試みる、

「労」働と創「作」を通してこそ、強固な意志と実践力を持った人間形成ができるとするもの）で、玉川の教育に役立てるため、この田端遺跡敷石住居址を、当時の玉川学園女子短期大学校舎（短大廃止後、大学9号館と改称）の庭に、現物の石材で移設再現しました。

当館ではこれまで、移設したこの敷石住居址を、学芸員の解説つき学内散策「丘めぐり」の際に立ち寄りたり、教員の担当科目で見学するなど、活用してきました。しかし移設から半世紀を経て、敷石住居址が保存されていることを知る者は学内にも少なくなり、半ば忘れられた存在となっていました。



旧移設地での石材の確認

今年、大学9号館が老朽化のため取り壊されることになり、建築担当の学園総務部管財課に、敷石住居址の保存について、当館から相談をしました。敷石を解体の上、石材を箱詰めしての保存も止むを得ないと考えての相談でしたが、これまで保存活用してきた住居址なので、再移設をして、生徒・学生たちへ「ホンモノ」の教材として活用できるよう整えてはどうかとの望外の回答を得ました。そこでアプローチしやすく、学内の聖山横穴墓群等の遺跡と関連付けての見学に適し、地形的に縄文時代の遺跡の立地に似た再移設の候補地を探したところ、小学部校舎（K-12 経塚校舎）と大学の校舎（STREAM Hall 2019）の中間に適地を得ました。再移設は法人上層部の了承の下、管財課が中心となり準備を進め、当館は考古学の専門の立場から、作業の方

法や仕様の決定、現場での指導に当たることになりました。また作業着手前に、町田市教育委員会に対し敷石住居址の再移設計画を伝え、文化財保護法上の手続きを要しないことの確認も得ました。

住居址の再移設は、業者に依頼しての施工も考えましたが、管財課との打ち合わせの中で、今回も学生の労作で行う方針が決まりました。玉川大学には考古学の専攻課程がないため、労作に参加してくれる学生を探したところ、これまで学内の環境整備の労作に積極的に関わってきた、教育学部の理科教育の2つのゼミ（石井恭子教授ゼミ・市川直子准教授ゼミの3・4年生合計20名）が、賛同してくれました。新学期早々の4月8日から、ゼミの行われる毎週木曜日の午前3年生が、そして午後は4年生が交替で労作を行いました。



実測図と照合し石材を敷く

1968（昭和43）年に移設した際は、庭の隅に収めるため住居址の方位を変更し、敷石の間隔がやや間延びして、実際よりも大きめに復原されていました。さらに一部の石材は、本来と異なる位置に敷設されていました。今回の再移設では、発掘調査報告書を基に、住居址の方位と石材配置を、発掘時の状況に忠実に再現しました。ただし、個々の石材の高さは記録が残っていませんでしたので、旧移設時の石材の高さを計測して、これを基準にしました。

作業は、次の工程で進めました。

①住居址実測図上に、方位軸を基準として50cm方眼を設定。

- ②旧移設地で実測図と照合、石材を特定・付番し、レベルを計測し図面に記入。石材に番号と方位を記入したテープを貼付。
- ③石材を取り外し、再移設地に運搬。
- ④再移設地に遣り方で50cm方眼を設定、作業効率化のため原寸大に拡大した実測図を型紙として、石材を再配置。
- ⑤計測したレベルを基に、高さを調整しながら石材を敷設。



石材の高さを調整

旧移設地に敷かれた敷石を取り外すと、かなり大型の石材が使用されていました。これは田端遺跡が、石材供給推定地の境川のすぐ近くのため、運搬の手間を考慮せずに、敷石に適した石材を選択した結果と考えられます。学生たちはその重さに難儀していましたが、縄文人と同じ石を扱っていることに、感慨深い様子でした。

4週間をかけ、学生たちが一丸となって行った敷石住居址の再移設には、多くの人に敷石住居址を見てもらいたい、子どもたちの学習に役立てたいとの思いが詰まっています。

今回の労作では、腕力はもちろん、敷石住居をめぐる考古学的知識、初歩の測量技術やミリ単位の位置合わせのほか、石材の敷設に作庭技術も応用しました。様々な知識や技術を総合して実際に労作を進める中で、学生から出た作業上の工夫や改善意見は、どんどん採用しました。

参加した全員が「労働」と「創作」を通して考え、体験的、実践的に学ぶという、労作教育の本義に触れられたのではないのでしょうか。場所を移して当初の姿を現した敷石住居

報 告

址を見るときの喜びと達成感は、実際に労作に取り組んだ者ならではのものです。



敷石移設の完了状況（西から）

今回の敷石住居址の再移設にあたり、玉川学園考古学研究会 OB の戸田哲也・迫和幸両氏には、様々なご助言・ご指導をいただきました。また管財課の全面的な支援の下、学園の土木・建築や造園に携わる協力会社には、大変お世話になりました。なによりも、実際に労作に熱心に取り組んだ石井ゼミ・市川ゼミの皆さんには、玉川学園における労作教育を理解する目的で、コロナ禍で対面授業の回数が限られる中、貴重な時間を割いていただきました。関わって下さったすべての方に、この場を借りて御礼申し上げます。

新しい場所を得た敷石住居址は、見学路を整備し、また今後は解説板の設置などを行い、見学利用の便を図る予定です。



見学路を整備して完成

■ G. カサド楽譜の刊行

このたび 2021(令和3)年3月31日、当館監修のもと、風の音ミュージックパブリッシングより、ガスパール・カサド作曲「ショパンの主題による7つの変奏曲」(ファクシミリ付き)を出版しました。また楽譜の出版を記念して、本学芸術学部教員による演奏で、楽曲をご紹介します。動画は、当館ホームページよりアクセスいただけます。なお今後、カサドの未出版作品を中心とした楽曲を「Gaspar CASSADÓ x Tamagawa University Project Series」として順次出版していく予定です。

■ 博物館実習

通学課程「博物館実習」

2021年9月6日～9日、13日～16日 計15名

通信教育課程「夏期学芸員スクーリング」

2021年8月11日～16日 61名



統計（2020年10月～2021年3月）

開館日数 118日 入館者数 340名

収集

〔資料〕	日本教育史	25件
	その他	4件
〔図書〕	和書	216冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	25冊
	洋雑誌	9冊

資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2021年3月～2021年8月）

森 裕 哉 学園史関係資料 19件

ありがとうございました

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う「臨時対応」のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者の方々の健康と安全を考慮し、当面の間、入館はWeb申込みによる事前予約制といたします。詳細につきましては、当館ホームページをご覧ください。

皆さまにはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年度下半期 開館カレンダー

2021年10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2022年1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

休館日

企画展「近代日本の
学校体育と運動会」
特別展示
「新収蔵アイコン展」

第1展示室
(日本教育史常設展示)
のみ公開

※この予定は、大学授業・行事日程等により変更することがあります。

詳細につきましては、当館ホームページをご覧ください。



交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分
※改札を出て「南口」側に降り、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門（南口門）に行き当たります。博物館へお越しの際は、校門の案内所にて入校手続きを行って下さい。

利用案内

開館時間 10:00 ~ 17:00

(入館は16:30まで)

休館日 土日・祝休日および玉川学園・玉川大学の定める休日等

(詳細につきましては、当館ホームページをご覧ください)

入館料 無料(事前予約制)

博物館ニュース SHŪ No.57

2021年9月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHŪ』は、漢字で『集』とあらわします。
博物館に「集」められたさまざまなものをめぐり、多くの人々の「集いの場」になるようにと願って名づけました。